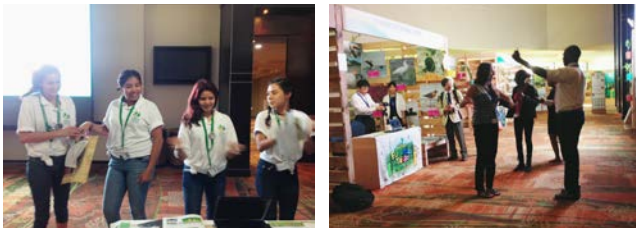




●展示ブースは、田んぼでタンゴ！

昨日不在だった(株)アレフの皆さんが、一日観光から戻ってきた。ラムネットの展示ブースでは、朝から「ふゆみずタンゴ」の動画がプレイヤーから流れ、皆立ち止まって音に反応する。地元の高校生らが、グループで社会勉強の一環として会場の見学に来ていた。ビデオを見ながら、楽しそうに踊って行った。

CEPA効果は、まず参加からというが、日本人にはちょっと恥ずかしくても、陽気な国ではツールとして効果的だった。



↑「ふゆみずタンゴ」を踊る人たち

●何が起るかわからない、ドキドキの当日最終調整

サイドイベントは、夕方の18時15分からなので、昼休みに登壇者の顔合わせと最終打ち合わせのためテーブルを確保した。昨日から見直してきたプログラムを資料として用意したが、開始6時間前になって再び修正が入り、登壇者の名前や、発表内容が変更になった。どこまでも柔軟に現場で対応が求められた。

登壇者らが打ち合わせをしている間、ケイタリングの最終確認をするためキッチンスタッフを捕まえて、ダブルチェックをお願いしたところ、何度待っても担当者に繋がらない。「すぐ呼んでくるから、ここで待って！」と言われるも誰も来ない。諦めず何度もトライして、3人目に呼ばれてきた女性から「支払いが済んでいない」「サンライズビルのオフィスに行け」と言われ、日本で用意した用紙を改めて記入し直して署名をし、手続き完了。

少なくともケイタリングが無いということだけは、回避できた。

●CBDアライアンスは、今年も海賊キャプテンのパフォーマンス

展示会場とサンライズ棟を行き来していたら、韓国ピョンチャンの時と同様に、CBDアライアンスの海賊キャプテンが、生物多様性を危ぶませる悪者を選出するパフォーマンスを演じていた。時間がなかったので、

写真だけ撮って通り過ぎてしまった。結果についてはまた、後ほどのカンクンレポートで報告したい。



↑ CBDアライアンスの海賊たち

●ラムネットJのサイドイベント

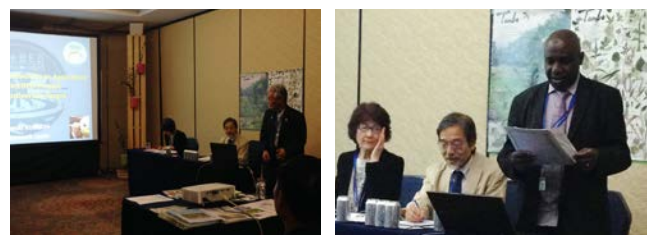
ケイタリングも無事に届き、会場に集まった人たちは、食事を済ませ、定刻にサイドイベントを開催した。



↑ケイタリング

↑安藤さんと柏木さん

全体進行役は柏木実さん、開会の挨拶は安藤よしのさんが行った。プレゼンテーションは全部で5つ。まず初めに呉地正行さんから「田んぼ10年プロジェクト」の発表があり、続いて地域からの発表として、ウガンダ水環境省のポール・マファビさんが、ウガンダではアフリカでの水田決議の実践モデルに取り組んでおり、湿地を利用した稲作を展開していることを発表した。



↑呉地さんの発表

↑マファビさんの発表

続いてネパールからの事例の予定出会ったが、国立湿地センターのカマール・ライさんが、先住民と地域共同体のエクスターションが遅れて到着していなかったため、順番を入れ替えて、(株)アレフの橋部佳紀さんから、ハンバーグ・レストラン「びっくりドンキー」の取り組みを発表していただいた。びっくりドンキーの取り組みのユニークな点は、低価格帯を狙った庶民的な外食産業でありながらも、積極的に生産者サイドへ「ふゆみず田んぼ米」や「省農薬米」への働きかけを行い、農家と契約をして安心安全な食品の提供に努

めていることにある。

アレフの発表が終わってもカマルさんが到着しなかったため、カマルさんの発表資料を、柏木さんが代読で発表をした。



↑橋部さんの発表

↑ハン・ドンウクさん

また、長年ラムネットJと一緒に韓国NGOとして活動を行ってきたハン・ドンウクさんが、今回、韓国政府の代表団の一人として本サイドイベントに参加しておられたので、フロアからご発言いただいた。生物多様性、あるいは生き物の視点のみならず、文化などを含めた持続可能性の視点にも目を向けるべきであるという指摘をされた。

最後に、国際連合食糧農業機関（FAO）のマティアス・ハルヴァート博士に「持続可能な農業プログラ

ムと田んぼ」について発表していただいた。ラオスでの一般市民の食卓に関する調査結果を行った結果、大多数が近所の川や沼、田んぼから魚を捕獲して食卓に上げており、田んぼは米を生産するだけでなく、魚や貝など人々の貴重な栄養源であること、魚の種類によって栄養成分も異なり、多様性が確保されることが重要であると博士は述べた。



↑ハルヴァート博士の発表 ↑ふゆみずタンゴ

全てのプレゼンテーションが終わり、かなり時間も押していたが、参加者が期待していたので、「ふゆみずタンゴ」のダンスを、2回ほど流して、みんなで楽しく踊りを踊った。

サイドイベントは、大盛況のうちに終了した。

（レポート：後藤尚味・柏木 実）



↑サイドイベント終了後の記念写真